

な か ま

発行

佐倉市立中央公民館
な か ま 編 集 係

〒285-0025
佐倉市鍋木町 198-3
電話 (043) 485-1801

2 ページ	市民ランナーとボランティア	齋藤 雄	「なかま」	神田久恵
3 ページ	佐倉市民ハイキングに初めて参加して	田中弘幸	年賀状	塚原謙二

子供の時代へタイムスリップ

田 中 修 司

現代での私達の生活は便利さや効率化が与えられ、昔とはかなりかけ離れた環境の中で、それが極くあたり前のように営まれている。

そんな中、たまには昔の生活を振り返ってみることも大切なことだ。

ここ「台東区立下町風俗資料館」は、ふつと幼かった昔を思い出させてくれ、心の癒しになること請け合いの場所だ。ここでは、髪の白い人や薄い人、腰の曲った人等々大人の大人達が童心に返ってはしゃぐ姿があり、他では見られない光景がある。

入口では法被姿のおじさんが、木戸銭と引き換えに案内書を手渡す手前なのか、カッブルの外人さんにたつたひと言、「イングリッシュ？ フランズ？」と訛交じりで声を掛け英語版やフランス語版などの

案内書を区分けして、手渡ししているのも面白い。

さらに中に進むと館内には子供みたいな大人達の声が響き渡っている。

おじさんの「昔の方が趣きがあつていいよな」との言葉も自然味がある。

おみくじや独楽回し、木製のパチンコ等々にはしゃぐ背広姿の重役風のおじさんが、幼少の頃の自分を見つけたのか子供みたいにはしゃぐ姿も見ていて楽しい。

何時しか、自分も虜になつて一緒に歓声を上げていたとは……

紙芝居や鼻緒造りの職人技の実演や江戸の下町の様々な工芸品が展示され、また駄菓子屋等の商家や落語に出てくる様な長屋には座敷に上がった、火鉢や箆笥などの家具や小道具を見て触れるのもうれ

しい。

また、銭湯では番台に座れ、登ってみると意外に高く、脱衣所（残念だが、ここでは展示場である。）が一望出来、見晴らしも良い。

「つり銭の無きよう」と江戸文字でかかれた張り紙も憎い。その上、浴場へ入る「男湯」「女湯」と書かれた磨硝子戸の入口は、ずばり本物。

加え、館内に流れる音楽は、昭和初期の歌謡曲か、それはそれは小さく、静かに、心淋し気で、まるで古びた蓄音器から流れ出るモノクロ風の音声で、この演出効果も見事である。

江戸、明治、大正、昭和の時代の流れがこの空間に詰め込まれた温もりのある伝統を再現された姿に感銘したことに加え、こんな懐かしく楽しい思い出をくれたこの木戸銭が、何と三〇〇円とは本当に安い三〇〇円であった。

(編集委員)

市民ランナーと ボランティア

皇居外苑周回路を会場とする、スポーツボランティアに参加した。今や東京マラソンの影響で市民ランナーが増加する中、都心の格好のコースである。時にはお堀、時には高層ビルを交互に眺め適当に高低差があり、ランナーにとって走り甲斐があると思つた。

この日は私達の大会の他、別の団体でも競技をやつていたこともあり、一般の歩行者が往来する中、大会を運営する側にとっては難しく又ボランティアの訓練の場にもなつた。

ボランティアは受付・記録係・走路監察・給水・荷物係等予め決められた位置に着き、私は二人一組で半蔵門交番前に立った。休日で混雑し、しかも交差点から公園への入口のため、歩行者とランナーが接触しないよう誘導に追われ

汗だくの日であつた。

適当な広さがある桜田門時計台傍をスタート・ゴールとしているが、一周五^キに二十分満たないため、種目によってゴール間近に別々の折り返しが必要で、変化に富んで面白い。

私達スポーツボランティアは、この世界の有名人宇佐美彰郎先生のご指導の下で、出場選手とボランティア両方の立場を研修している。東京マラソンのボランティアを含め身体が持つ限り有意義な活動を続けたい。

市民ランナーとしての私は、地元佐倉朝日健康マラソン大会で、間もなく市民の部十^キの連続出場二十五回目を迎えるようとしている。

継続は力なり

楽しく実行 自分流

(石川 斎藤 雄)



「なかま」

「なかま」を辞書でひくと「ある物事を一緒になつてする者」「同じ種類に属するもの」とある。さすれば私にはなかまに分類される友人・知人をはじめ、色々な目的を達成するべく社会活動等に熱心に取り組む先輩・同僚やメン

バーがいる。なかまは大切なものであると同時に良きライバルでもある。なかまのゴールは恐らく同じ環境であり場所なので、と推測される。

できればゴールは明るくバラ色が良いと考えるのは多分、私だけではないと思う。「きれいな花には…」の例えもある通り一朝一夕にという訳にもいかず「果報は寝て待て」ともならないだろう。しかし目的・目標は努力や行動なくして達成はおろか、引き寄せることも叶わないのではないだろうか。

何人も希望や目標の無い人

生を送ることが本意ではないと信じたいものである。

残された人生、どれ程かは「神のみぞ知る」であるが、私は出来る限り希望と目標・目的をもってなかまのために微力ながら力を注いでいきたいと考える。

この働きこそが血となり力となつて、何れ自分に還つてくると信じている。

そもそも、奉仕とは見返りを求めないで世間のために尽くすことではないのか！
今までの私はともしれば、この事を忘れかけていたのかもしれない。この「なかま」の原稿を書きながら、ふと我に返っている自分が恥ずかしい。

新しい年を迎えてなかまのために何が出来るか！何をすればなかまのために力になれるか！

今年はこの言葉を念頭に自分も磨いていく年にしたいと思う。

(藤沢町 神田久恵)

佐倉市民ハイキング に初めて参加して

二十一年十月十七日行われたしづ市民大学カリキュラム「志津公民館祭（ウォークラリー）」で同じ組になった方から「毎月、第二日曜日に佐倉市民ハイキングを行っているので参加してみませんか」と誘われてこの会を知った。

散歩との出会いは禁煙をした二十年前に遡る。煙草をやめた途端に食欲が増し体重が増えると共に血糖値が高くなり、ドクターから「このままでは糖尿病になりますよ。歩くことが一番です」とのアドバイスを受け散歩を日課とした。しかし、自己流だったこともあってか、血糖値は安定したがやや高めで推移した。そんな中、しづ市民大学受講二年目（二十年度）の「リフレッシュ健康学」で講師から教えていただいた散歩のポイント「歩数計を付けて・楽

しく・無理なく一日一万歩・

記録を必ず残すこと」を実践した結果、今年の健康診断で血糖値が正常値に戻り嬉しかった。歩くことの効用を再認識し、完全に散歩に嵌^{はま}っていった。中での誘いだっただけで有難く思い、今回（十二月十三日）初めて参加した。

京成佐倉駅を九時にスタート、中央公民館（酒々井中央公民館（昼食・合唱））本佐倉城跡（京成佐倉駅迄、皆さん（一八四名）と一巡した五時間余、二万二千歩、十四キロ）は予想以上に疲れたが、本当に楽しく有意義な一日を過ごさせていただき、満足感一杯で帰宅した。

そして、歩くことの利点、歴史の町佐倉の魅力、車座で談笑しながら食べたお弁当の美味しかったこと、みんなで歌った素晴らしい合唱のことを、友人、知り合いと会った時に楽しく語り合いたいと思う。

（中志津 田中弘幸）

年賀状

以前は全部手書きで年賀状を作っていた。百通ほどだが意外に大変で、十二月後半になると気が重く一日一日と先送りしていた。土壇場になって三晩ほどかけて書いたが肩のこる思いだった。

今はパソコンで作るのでなんと簡単なこと。宛名もリストによりばらばらとあつという間に印刷終了。文面も相手により添付する写真や文を三つか四つ用意しておいてコピー一杯飲みきらないうちに印刷完了。

手書きに比べれば誠意のほどは劣るのはいなめないが、相手の眼に留まるのも数秒なので勘弁してもらおう。

送る相手の多くはかなり前から実生活上のお付き合いは疎遠になっていて、細い蜘蛛の糸のような記憶で繋がっているだけだけれど、年賀状まで止めてしまったら完全に切

れてしまうようで、これまた寂しい感じもする。

後期高齢者の年代も通り過ぎて絶滅危惧種のステージにいる身だが、同じような年配の知人友人から貰う年賀状は特に嬉しい。「まだ元気で生きていたのか」とその人の温かい息がこちらの肌に一瞬触れるような懐かしさが蘇^{よみがえ}る。宇宙の時空からみれば人間の命など一瞬の一瞬で、その同じ一瞬に生き合わせた者はまさに奇跡なのだから粗末にはできない。

年賀状についてはいろいろご意見もあるけれど、日本の一つの文化かなとも思う。私の場合、多分死ぬまで年々少なくなっていく知人友人に年賀状を出し続けるだろうと思う。

（大蛇町 塚原謙二）



3月の黒板

平成22年度佐倉市民カレッジ受講生募集のお知らせ

健康で生きがいをもちながら、住みよいまちづくりを考え、地域で活動することを目指す学習です。1・2年生は「であい課程」で一般教養を学び、3・4年生は「専攻課程」で学びを深めます。

入学資格 市内在住で4年間継続して通学できる40歳以上のかた（再入学不可）

募集定員 100人（60歳以上80人 40歳以上～59歳以下20人）
（年齢は平成22年4月1日現在。定員を超えた場合は抽選）

願書受付 平成22年4月1日（木）～7日（水）午前9時30分～午後4時
中央公民館へ本人が持参

学 習 主に火曜日（学習日数 年間35日程度）講義、話し合い学習、校外学習など

修業年限 4年 **費 用** 年額10,000円（材料費、保険料などは別途負担）

*詳しくは、入学案内・入学願書が市内の公民館・図書館にありますので、ご覧のうえ応募して下さい。

お問い合わせ 佐倉市立中央公民館（第2・第4月曜日は休館日です）

電話 (043) 485-1801

URL <http://www.city.sakura.lg.jp/kominkan/cyuou/index.htm>

わくわく道

立春を過ぎてから雪が降ったかと思うと、一転して春のような陽気になったり、まさに三寒四温の最近の天候ですが、春は確実にそこまで近づいているようです。

我が家の庭では、沈丁花の花がほころび始め、ほのかな香りを漂わせ、その足元ではふきのとうが、緑色の小さな頭をのぞかせています。

先日、市民カレッジ卒業式の

あとがき

今年の冬は鹿児島でも雪が降ったり随分寒い日が続きました。が、ようやく春めいてきました。

今年から気象庁はさくらの開花予想を発表しないことになったと聞いています。従って、開花の予想は自らが目で見て肌で感じ自分で判断しなくてはなりません。これも自然と触れる機会が増えていいことでないかと思っています。

三月は会計年度では最後の締

予行練習が、例年通り行われました。

入学式のときは、四年間という長丁場に耐えられるかと、多少不安を覚えたものですが、今にして思えば、あまりにあっけなく過ぎ去り、一抹の淋しさも加わって、なんとも複雑な心境でした。

卒業後は、沢山の「なかま」との出会いを礎に、学んだことを活かして、新しい自分の「ライフワーク」を模索しつつ、社会貢献の道につなげて行けたらと思います。

（伊藤由紀子）

めの月にあたります。一方「なかま」の三月号は四〇一号となり、次の節目である五〇〇号を目指し歩み始め、そして歩み続けることとなります。

「なかま」のファンが増え、更に多くの人に読まれるようになってほしいと思っています。今後共「なかま」を御愛顧、御支援下さるよう宜しくお願い致します。

（池田圭三）

